

中日会報

公益社団法人 中部日本書道会
 編集事務局 名古屋市
 〒450-0002 名古屋市中村区名駅二丁目45-19
 桑山ビル8階C号室
 電話 (583) 19000番
 F A X (583) 19100番
<http://www.cn-sho.or.jp>
info@cn-sho.or.jp
 印刷 株式会社 荒川印刷

ご挨拶



理事長
鬼頭翔雲

猛暑の夏も過ぎ爽やかな季節になって参りました。

九月には二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まり久しぶりに国内が歓喜の渦に湧きました。

一方、東北地方の被災地ではその後の復興が思うように進まず、そういうニュースを聞くたびに胸を締め付けられる思いを持ちます。一日も早い安心、安穏な生活が送られますようお願い申し上げます。

さて、本会もこの十一月で「公益社団法人」認定・登記、満二年を迎えます。旧法人から移行し定款、諸規定も内閣府公益認定等委員会の指導により改正されその取り決めにより諸事業を推進しています。

公益社団法人の最も重要なことはその活動の「公益性」であります。つまり各種事業が一般市民に十分な門戸を開けているかどうかであります。本会の事業を見てみますと中日書道展・中日書きぞめ展・寿書展・

書道教育研修講座・公開講座・講演会・福利厚生ボート大会等、ほとんどの事業は本会のホームページで公開し、また中日新聞記事等により一般市民の参加も歓迎しています。只、本会には八支部がありまして支部展等、一般市民の参加ができていくかどうか、可能かどうかの問題点もあります。支部皆様には今後、前向きに検討して頂き地域に根付いた中部日本書道会の活動を格段と広めて頂けたらと考えております。

本会では来年、創立八〇周年を迎えます。昭和九年創立以来、先人、先賢諸先生のご尽力、ご苦労のお陰により今日の中日書道会があります。事務局ではこの節目の記念事業をすべく特別プロジェクトを組織し、有意義な祭典をと検討しております。骨子もできあがり近々、理事会でご審議頂いた後、皆様にお知らせしたいと考えております。

秋から冬にかけては「書道教育研修講座」「公開講座」「壽書展」「愛のチャリティ募金運動」「福利厚生事業ボート大会」年が明けますと「中日書き初め展」「講演会」と続いて参ります。更には来年の中日書道展の準備も進めて参らねばなりません。事務局一同「一致結束、前向き」を合言葉に頑張つて参ります。

何とぞご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本部事務局(平成二十五・二十六年度)

理事長 鬼頭 翔雲

副理事長 松永 清石

副理事長兼事務局長 関根 玉振

総務部 部長 青木 清濤

次長 梶山 盛濤

庶務部 部長 天野 白雲

次長 浅井 明奈

企画部兼IT部 部長 横井 宏軒

次長 木俣 紫香

第一事業部 部長 伊藤 龍仙

次長 伊藤 龍仙

第二事業部 部長 佐野 翠峰

次長 磯貝 弘子

研究部 部長 廣澤 凌舟

次長 内山 蘭月

八十周年記念事業担当部 部長 上小倉積山

次長 庄田 華鳳

第一経理部 部長 大池 青岑

次長 葛谷 恵園

第二経理部 部長 川崎 尚麗

次長 宇佐美匠香

第一会員部 部長 馬場 紀行

次長 石黒 直子

第二会員部 部長 山田 杏華

次長 山田 杏華

褒賞部 部長 武内 峰敏

次長 吉村 和子

厚生部 部長 小島 瑞柳

次長 小島 瑞柳

川合 玄鳳

小島 岐香

鈴木 松屋

林 柏堂

佐野 翠峰

磯貝 弘子

片山 清洲

河田 聖翠

廣澤 凌舟

内山 蘭月

鈴木 静香

中川 星光

長谷 太郎

後藤 啓太

浅井 慎香

神谷 松扇

清水 春蘭

谷 鴻風

水野 峯翠

岡野 楠亨

加藤 花哇

加藤 秀慧

鷺野 紫篁

村瀬 俊彦

磯谷 凌聴

衣川 彰人

長谷川 眞山

工藤 俊朴

浅井 慎香

神谷 松扇

清水 春蘭

谷 鴻風

水野 峯翠

岡野 楠亨

加藤 花哇

加藤 秀慧

鷺野 紫篁

村瀬 俊彦

磯谷 凌聴

衣川 彰人

長谷川 眞山

工藤 俊朴

目次

- 1 ご挨拶 鬼頭翔雲理事長
- 2 本部事務局
- 9 国内史跡探訪研修旅行 奈良・丹後・若狭の旅
- 10 第二十五回書道教育研修会 報告
- 12 第三十回読売書法展入賞者 第六十五回毎日書道展入賞者 チャリティ愛の募金 ボウリング大会案内
- 13 支部だより
- 16 計報
- 17 第十七回 書の魅力 公開講座案内



宿泊 宮津ロイヤルホテル

- 見学地
- なら工藝館
 - 杉岡華邨展「良寛を書く」
 - 大和文華館
 - 元伊勢籠神社
 - 日本三景 天橋立、傘松公園
 - 三方五湖
 - 梅丈岳山頂公園



大和文華館正門



なら工藝館入口

平成二十五年度
国内史跡探訪研修旅行(奈良・丹後・若狭)
平成二十五年八月十八日(日)・十九日(月)

国内史跡探訪研修旅行 日程表

日数	月日 (曜日)	旅行内容
①	8月18日 (日曜日)	8時15分 JR名古屋駅西口広場に集合 8時30分 貸切バス4台分乗にて名古屋高速道路・東名阪自動車道を利用して奈良市内へ 途中、サービスエリアにてトイレ休憩(1回) 11時10分 「なら工藝館」に到着 着後、1階ギャラリー阿字万字(あぜまめ)にて開催されている「かな書之美—杉岡華邨の世界—」展の「良寛を書く」を参観 11時45分 一般道を利用して昼食会場へ 12時00分 「奈良パークホテル」に到着 着後、1階大広間にて“玄武料理”での懇親昼食会 13時30分 一般道を利用して学園前へ 13時40分 「大和文華館」に到着 着後、講堂にて解説員による説明を受けて、その後に参観 14時30分 京奈和自動車道・京滋バイパス・京都縦貫自動車道・丹波綾部道路・綾部宮津道路を利用して日本三景の一つ天橋立へ 途中、サービスエリアにてトイレ休憩(1回) 17時30分 天橋立を一望する高台に建つ「宮津ロイヤルホテル」に到着 着後、懇親夕食会までの間は温泉入浴など自由行動 18時30分 B1階「橋立」にて懇親夕食会 夕食後、解散 (天橋立：宮津ロイヤルホテル泊)
②	8月19日 (月曜日)	7時00分～ 1階「ロイヤルホール」にて各自自由に朝食 8時45分 天橋立市内観光へ 9時00分 伊勢神宮のふるさと「元伊勢籠神社」 10時00分 リフト又はケーブルカーを利用して“股のぞき”が楽しめる「傘松公園」 11時00分 一般道を利用して舞鶴へ 12時30分 「舞鶴グランドホテル」に到着 着後、2階「コンベンションホール」にて“和・洋食料理”での昼食 14時00分 舞鶴若狭自動車道・三方五湖有料道路を利用して梅丈岳へ 15時30分 「梅丈岳山頂公園」に到着 着後、リフト又はケーブルカーを利用して山頂へ(山頂からは三方五湖が一望) 16時30分 北陸自動車道・名神高速道路を利用して名古屋へ 途中、サービスエリアにてトイレ休憩(1回) 19時10分 JR名古屋駅西口広場に到着、到着後に解散

国内史跡探訪研修旅行を実施して

企画部長 横井 宏 軒

本年度の国内史跡探訪旅行は、八月十八日(日)・十九日(月)に二四一名の参加者で奈良・丹後・若狭の旅を中心に研修・観光をしました。本研修旅行の目的は、知識の修得、情報の収集および会員相互の親睦、連携を図ることです。

今回の研修先は「なら工芸館」。そこは一刀彫・墨など奈良の伝統工芸を紹介する施設ですが、「杉岡華郵書道美術館」が増築工事で休館中のため、一階の「ギャラリー阿字万字(あぜまめ)」にて日本芸術院会員で、二〇〇〇年秋に文化勲章を受章された杉岡華郵先生の「かな書の美とその表現の可能性」を追求された貴重な作品を見せていただくことができました。

「大和文華館」は自然苑に囲まれた中に建てられ、「鑑賞のための美術館」、「美のための美術館」としての趣があり、特別企画展『海を超える美術』が行われており、一つ一つの作品は見応えがありました。

翌十九日は「天橋立観光」でした。天橋立は対馬海流が宮津湾に運んできた砂と内海の阿蘇海に流れ出る土砂が、何千年という長い時間をかけて堆積して、現在の地形を作り出したと考えられています。文殊堂、股のぞきが楽しめる「傘松公園」、伊勢神宮のふるさと「元伊勢籠神社」日本の名松百選に選ばれている松並木、三方五湖が一望できる「梅丈岳山頂公園」等を参観しました。

帰りの高速道路では渋滞があり、名古屋駅西口には予定時間より四十分程遅れての到着でしたが、具合の悪くなる方も無く、予定通りの研修旅行を終了することができました。

最後に、今回の研修旅行につきまして、参加者をはじめ多くの方々にご協力いただき無事に終えることができましたこと、この場を借りてお礼を申し上げます。



梅丈岳山頂公園より



伊勢神宮のふるさと元伊勢籠神社山門



大和文華館で熱心に見入るメンバー



宮津ロイヤルホテルでは「ロディ」の歓迎も…

1号車

井谷 李春

当日は、厳しい猛暑に見舞われましたが、一号車三十九名は、元気一杯で出発しました。

車長の荒川先生が、乗せ忘れの無い様に人数チェック。毎年恒例となった中日書道会のバス旅行ですが、一号車には四年間いつも同じバスガイドの小川さんが担当して下さり、ダブルチェックで道中は、心配無しです。バスは、「なら工藝館」へ向かいます。

六百四十二メートルの生駒山に迎えられ、ならまちの格子の家が見えて来ると到着です。

「ギャラリー阿字万字（あぜまめ）」で文化勲章を受賞された杉岡華邨先生の「良寛を書く」の作品展を鑑賞。良寛の和歌を素敵な料紙に空間の美、そしてその流麗な書きぶりに、かなの美を感じる事が出来ました。

そこは杉岡華邨先生の奥様和子さまが館長をされており、開館当初からの話などをして下さいました。二階には、休憩室を設けて頂き、茶菓のご用意まで。お土産には華邨先生の作品の葉書を頂戴し、御心遣いにとでも感激しました。なら工藝館内には、一刀彫、赤膚焼、墨、奈良筆、鹿角細工などが展示されていて興味深く拝見いたしました。時間は、あっと言う間に過ぎ、杉岡先生の奥様とスタッフの方に見送られて出発。

五重塔が見え、奈良公園の横を通ると「鹿、いないかな?」「おった、おった!」「ぎょうさんおるわー」(笑...)鹿せんべい売り場の横に群がっており、車内はたいへん盛り上がりました。そして、朱雀門。奈良を実感。また、奈良をのんびりと訪れてみたくなりました。

二日目、樽本先生はご多忙の為離団。一号車のテンションは、少し下がりましたが廻旋橋へ。そこからの風景は、キラキラと素敵でした。暑さに負けて、ソフトクリーム・かき氷売り場へ。名物は、黒豆ソフトです。そして、傘松公園へ、ケーブルカーに乗り四分。「股のぞき」日本三景の一つ、天橋立を見下ろす景色は、やはり最高です。リフトで下り、事前に貰った松井物産の割引券を持ち、お茶も頂き、それぞれ買い物を楽しみました。皆さん御土産は、黒豆かな?

三方五湖も傘松公園も晴天で空も海も山も青く、とても綺麗な景色でした。この旅を通して、一号車の先生方の親睦は更に深まりました。



絶景! 眼下に8000本の松が並ぶ天橋立が見えます



説明される杉岡華邨先生の奥様和子さま



宮津ロイヤルホテル玄関にて

2号車

内山 蘭月

中日書道会史跡探訪研修旅行に二号車として参加させていただきました。

最初の訪問先は奈良市にある「なら工芸館」、杉岡華頓先生の流麗な、かな書の美しさを堪能いたしました。

館内では、奥様の和子様からいくつかの作品について「三種類の墨を使い分けた作品」などの解説をいただきました。短い訪問時間でしたが、優美な線や濃淡の向こうに良寛の歌った情景が浮かびあがり、とても興味深く鑑賞することが出来ました。

次の訪問先「大和文華館」は、池畔に立つ桃山建築風海鼠壁と漆喰の白が背景の青空に映えて、とても美しい建物でした。

今回は「海を越える美術」展が開催されておりまして。

江戸の鎖国時代にも異文化に対する興味は強かったようで、諸外国との交流によりさまざまな面で影響を受けてきたことが、展示されている絵画や硝子工芸品から伺い知ることが出来ました。

特に、切子硝子の美しい色と輝きに目を奪われました。使われている藍色も時代によって違うなど、興味深いものでした。

中でも透き通る硝子に繊細に描かれた帆船の「東印度会社帆船図酒杯」は、書友と「美味しくお酒が飲めそうね」

と下戸の私なのに思わず同感してしまいました。

二日目は日本三景の一つ天橋立の観光で、私は初めての訪問なのでとても有意義に過ごせました。

天候にも恵まれ、紺碧の海に伸びる橋立は八千本もの松が生い茂り、緑が美しく大変感動しました。次に来る時は是非歩いて渡ってみたいものです。

また、文殊山の展望台では天橋立を一望でき、ダイナミックな景色に圧倒されました。参加された方の中には「股のぞき」で更に絶景を楽しんでおられる方もみえました。

二日間にわたっての史跡探訪研修旅行。参加された皆さんは終始和気藹々とした雰囲気楽しんでおられたと感じています。

私が参加させていただいた二号車の方々には、興味深いお話しを聞かせていただいたり、お菓子をいただくなど、大変お世話になりました。おかげさまでとても楽しい旅行となりました。

また、初めての方とお話しが出来て更に交流を広めることもでき、充実した時間を過ごすことが出来ました。

最後に今回素晴らしい研修旅行を企画・運営していただいた先生方、事務局の皆様方のご尽力に感謝いたします。次回も楽しみにしております。ありがとうございました。



なら工芸館にて



文殊堂にて



和気藹々、2号車の面々



宮津ロイヤルホテル玄関にて

3号車

原 霞扇

八月十八日三号車団員三十五名は、副理事長松永清石先生・号車長松浦華苑先生のご挨拶を頂き研修旅行に出発しました。

一日目は、なら工芸館と大和文華館の見学。なら工芸館ではギャラリと杉岡華頓先生の『良寛を書く』を見学しました。見学後休憩室にて茶菓の接待があると聞き、行ってみると偶然にも大半が三号車の団員でした。

大和文華館では「海を越える美術」と題して十七世紀から十九世紀の異文化交流をテーマにした作品の数々を展観。学芸員より、「江戸時代の日本人は鎖国の中でも長崎や琉球を通じて、好奇心を持つて積極的に諸外国の文化と学問を学んだ」と説明を受ける。見学後文華館を出ると、駐車場までの数百メートルが猛暑のため遠く感じられ、車中バスガイドさんからの水の配給に心も体も生き返りました。

また最後に立ち寄った赤松パークینگエリアでは皆がソフトクリーム売りに吸い寄せられました。熱中症予防のための水分と塩分の補給はもちろんのこと、好奇心を持つて積極的に美術鑑賞をしたことで、働いた脳には糖分の補給は不可欠。明日に備えて健康管理も万全。

二日目は、天橋立や三方五湖にある梅丈岳山頂公園など日本海の美しい風景を堪能する一日ではありましたが……暑い暑い。暑くて歩きたくないと思っていたら、今はケーブルカーとリフトがありました。十五年前に股のぞきで有名な傘松公園を訪れた時は店も何もなく、レンタサイクルで松並木を走ったことを思い出しました。山頂も股のぞきの台があるだけだったが、今回はケーブルカーで山頂へ登ることが出来るようになっていました。着くと、海からの涼風と美しい景色が爽快でした。あまりの気持ちよさにのんびりしていたら、集合時間まで間がなくなり慌ててケーブルカー乗り場へ。しかし、ケーブルカーは定刻運行のためすぐには発車しませんが、時間を守るためにはリフトしかない。リフトは一人乗なので数名は躊躇。しかし、しかたなく乗ってみると気持ちよく、あつという間に到着。集合時間にも間に合いほつとする。今回の旅行最年長の亀井幡川先生がリフトに乗り、元気に散策されている姿に自分の腑甲斐無さを反省。

こうして三号車の研修旅行は、社中を越えて互いに親睦を深め、和氣藹々に終えることができました。

景を堪能する一日ではありましたが……暑い暑い。暑くて歩きたくないと思っていたら、今はケーブルカーとリフトがありました。十五年前に股のぞきで有名な傘松公園を訪れた時は店も何もなく、レンタサイクルで松並木を走ったことを思い出しました。山頂も股のぞきの台があるだけだったが、今回はケーブルカーで山頂へ登ることが出来るようになっていました。着くと、海からの涼風と美しい景色が爽快でした。あまりの気持ちよさにのんびりしていたら、集合時間まで間がなくなり慌ててケーブルカー乗り場へ。しかし、ケーブルカーは定刻運行のためすぐには発車しませんが、時間を守るためにはリフトしかない。リフトは一人乗なので数名は躊躇。しかし、しかたなく乗ってみると気持ちよく、あつという間に到着。集合時間にも間に合いほつとする。今回の旅行最年長の亀井幡川先生がリフトに乗り、元気に散策されている姿に自分の腑甲斐無さを反省。



なら工芸館 2階より撮影



談笑し合う3号車の面々



3号車写真（傘松公園にて）

5号車

富田 栄楽

八月猛暑の中、本年度の中日書道会国内史跡探訪研修旅行が十八日(日)、十九日(月)に実施された。今年は奈良・丹後・若狭の旅。バス四台予定通り八時半名古屋駅西口広場を出発、東名阪自動車道を一路奈良へ。

名古屋高速に入り程なくして号車長の林柏堂先生からの本部役員の先生方の紹介のあと副理事長伊藤昌石先生から「会員相互の親睦を深め楽しく有意義な二日間にしましょう」との挨拶。早々と飲物、お菓子が配られ三十分もするとバスの中はもう最高の盛り上がりとなった。和気藹々の中最初の目的地なら工藝館に到着。杉岡華邨美術館は収蔵庫改修工事に伴い七月一日から十月十八日まで臨時休館であった為、「なら工藝館」一階ギャラリーで杉岡華邨の世界「良寛を書く」を観覧、先生の奥様の説明もあり、予定の三十分はあつと言う間に過ぎ、少々時間不足さえ感じた。奥様のお見送りに一同恐縮……。杉岡華邨先生の仮名美に陶醉するも東の間昼食会場奈良パークホテルに到着。

玄武料理と十分な飲物に堪能し一時半、次の目的地「大和文華館」へ。ここでは特別企画展「海を越える美術」を観覧。十七世紀から十八世紀にかけて東アジアを舞台にした異文化交流の中で制作された人物・山水風景の絵

画・硝子工芸品等の展示物に感動。

二時半「大和文華館」を出発、雄大な大自然をバスの中から眺めながら五時半宿泊地「宮津ロイヤルホテル」に到着。楽しみの懇親会では樽本先生、安藤先生、鬼頭先生挨拶のあと太田名誉顧問の乾杯で宴に入りました。

恒例のカラオケ大会では一宮支部の有心会がお揃いのユニホーム姿でドラゴンズの応援歌を披露、見事なチームワークで堂々優勝。五号車バウンザイ!

二日目はホテル玄関で集合写真撮影のあと日本三景の一つ天橋立へ。松並木を散策、傘松公園へはケーブルカーで展望台に登り名物「股のぞき」を楽しみ、帰路はリフトでゆっくり風景を眺めながら下山。

一時間程で昼食会場の舞鶴グランドホテルに到着。若狭湾の新鮮な料理と万全に用意された『お・も・て・な・し』を満喫。一時半ホテルを出発、最後の目的地梅丈岳山頂公園で三方五湖の絶景を眺め心のリフレッシュ。帰路は北陸自動車道、名神高速を利用して予定通り名古屋駅西口広場に無事到着。顧問の武山先生が最後の挨拶をされた後、号車長林柏堂先生のご配慮のお礼、乗務員さんへのお礼の言葉で本年度の史跡探訪旅行は幕を閉じた。



息もぴったり ドラゴンズ応援歌で宴会は盛り上がり…。



5号車写真 (傘松公園にて)

国内史跡探訪研修旅行参加者名簿

研修旅行役員

名誉副会長 樽本 樹郎
理事長 安藤 滴水
副理事長 鬼頭 翔雲
理事 松永 清石
伊藤 昌石

一号車

荒川 恵風
樽本 樹郎
鬼頭 翔雲
関根 玉振
飯田 瑞華
石井 方燕
磯谷 松風
井谷 凄聴
伊藤 李春
犬飼 美扇
岩田 梅川
榎本 照乃
榎本 南風
大橋 盛涛
神谷 緑泉
國島 英華
厨 柳青
黒川 虚宇
小島 瑞柳
小寺 彩恵
後藤 春洋
後藤 紅霞
佐藤 慶雲
白井 汀柳
下村 星光
世古 大虚
高桑 厳風
武田 晶庭
田中 隆豊
谷田 青崖
勅使河原 恵翠

二号車

山中 桂山
安藤 滴水
浅井 禎香
浅岡 明香
伊藤 均
稲垣 竹徑
内山 賦草
上田 蘭月
大島 緑水
加藤 翠影
加藤 裕
木保 紫香
小島 正人
後藤 啓太
後藤 江鷺
近藤 梅鷺
近藤 英志
佐々木 宏明
澤田 恵子
柴田 厚実
柴田 京扇
鈴木 石城
武内 紫燕
武内 峰敏
東倉 元彦
中川 星光
波切 童州
増田 山翠
水野 泉美
水野 菜月
山田 清香
横山 夕葉
吉田 鏡華

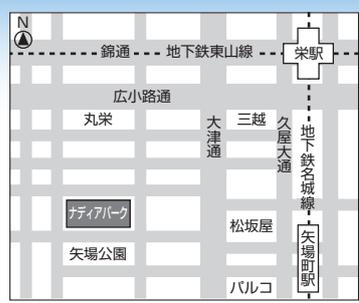
三号車

寺尾 桑林
林 大樹
深田 芳香
福岡 林泉
山際 雲峰
横井 宏軒
伊藤 清翠
伊藤 虹川
伊藤 正嶺
赤堀 清涛
青木 清涛
青木 清石
大池 青岑
江口 清翠
江口 清逕
伊藤 清逕
伊藤 虹川
伊藤 正嶺
伊藤 清涛
伊藤 清石
華苑

五号車
号車長 伊藤 林
理事・監事 伊藤 昌石
常任顧問・顧問 伊藤 昌石
印は協賛会員 伊藤 昌石

第64回 中日書きぞめ展作品募集

会期 平成26年3月22日(土)・23日(日)
22日(土) 午後2時～午後6時
23日(日) 午前10時～午後6時
会場 ナディアパーク2F アトリウム
名古屋市中区栄3丁目18番1号



授賞式 平成26年3月23日(日) 午後2時
ナディアパーク3F デザインホール
褒賞 文部科学大臣賞、愛知・岐阜・三重各県知事賞、名古屋市長賞、愛知・岐阜・三重各県教育委員会賞、名古屋市教育委員会賞、中日書道会賞(昇格)、中日新聞社賞、東海テレビ放送賞、中部日本放送賞(以上申請中)、名誉会長賞(名称変更)、理事長賞、推薦(新規)、奨励賞、特選、準特選、秀逸、佳作、入選
※会場には奨励賞以上の作品を陳列します。

資格 幼年・小学生・中学生・高校生
課題 自由 =参考= 幼年 う た・いのち 小4 自然の美・生命の力 中2 友好を深める・地球大交流
小1 みらい・みどり 小5 夢の大地・世界交流 中3 新技術開発・友好提携
小2 ふれあい・心とも 小6 地域開発・友情の輪 高校 墨の祭典・環境の美化
小3 生きる力・町の美化 中1 未来の夢・美しい自然

出品要項 詳しい出品要項が中日書道会本部にありますのでお問い合わせ下さい。
作品 〇用紙は、半切1/4(ハツ切)※高校生は半切縦も可 〇作品は、表装しないこと。
〇書体は、幼・小=楷書、中=楷書又は行書、高校生=自由
〇作品には、学年・氏名を必ず明記すること。
出品料 一点につき400円(個人出品者は賞品、賞状の郵送料として300円を加算。)
搬入締切 平成26年1月16日(木) 午前10時～午後3時(送付される場合は15日(水)中部日本書道会本部必着をお願いします。)
搬入場所 公益社団法人 中部日本書道会 〒450-0002 名古屋市中村区名駅二丁目45番19号 桑山ビル8階C号室
担当 教育部長 後藤 啓太 TEL(052)583-1900 FAX(052)583-1910
取扱所 伊藤大林堂、永楽堂、應天堂、魁盛堂、伽藍、菊屋商店、高誠堂、小松表具店、柴田紙店、四宝堂、新泉堂、青雲堂、青柳堂、荘文堂、大玄堂、大林堂、長楽斎筆舗、平野筆墨堂、名古屋ホウコドウ、松屋紙店

主催 公益社団法人 中部日本書道会、中日新聞社 後援 愛知県・愛知県教育委員会、岐阜県・岐阜県教育委員会、三重県・三重県教育委員会、名古屋市・名古屋市教育委員会、東海テレビ放送、中部日本放送(申請中)

第25回 書道教育研修会

日時 平成25年10月14日 (月・祝)

場所 名古屋国際センター

第二十五回書道教育研修会 報告

教育部長 後藤 啓太

十月十四日(祝・月)、名古屋国際センター五階会議室に於いて四講座を開催しました。

講座の前に、松永清石副理事長から、師匠の吉田桂秋先生と、倉橋一水先生のお話など、様々な角度から書に対するお話をうかがいました。大家と呼ばれた先生も、手に「たこ」ができるほど練習されていたことなど、しっかりと古典を勉強し自分の書を作ることの大切さをお話していただきました。

近代詩文書の川合玄鳳先生は、「文学者・画家・彫刻家の漢字かな交じりの書」を参考に講義されました。また、黒の画用紙に白チョークを水でのばしたもので揮毫されました。受講生の皆さんは、立って書いたり、自由に書く楽しみを味わっているようでした。

かなの福島有何先生は、「日比野五鳳先生の書」をテーマに日比野先生の生涯を、代表的な作品と共に紹介して下さいました。また、日比野先生の作品の臨書を実技指導して下さいました。受講生の皆さんに「かな」の細やかで奥深い書を感じていただけたと思います。

漢字の柘英峰先生は、「張猛龍碑」

の運筆・形・線の講義をされ、運筆法を指導して下さいました。さらに、古典を自分の中に沢山吸収し、作品に生かすことが大切と話され、受講生の皆さんの実技にも熱が入りました。

篆刻の丹羽常見先生は、受講生全員の名前を個々に印材に布字してお持ち下さいました。先生は線に筆意の美しさがなければならぬことや、書画の作品は最後に落款を入れて完成となる重要なものであることを話され、受講生の皆さんは集



書道講話 松永清石副理事長



福島有何先生



川合玄鳳先生

中して刻していました。どの講座も先生方の丁寧な講義で、受講生の皆さんは実技も楽しく勉強でき「次回も期待しています」



丹羽常見先生



柘 英峰先生

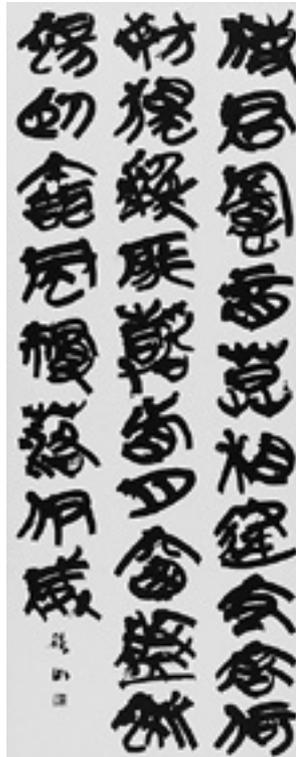
と嬉しいお声を頂きました。講師の先生方に深く感謝申し上げます。会員の皆様には多数のお申込を頂き有難うございました。

第三十回 読売書法展入賞者

(本会会員 関係分)



読売新聞社賞 (漢字) 加藤 紫雲



読売新聞社賞 (漢字) 上小倉積山



読売新聞社賞 (かな) 神保 峯子



読売新聞社賞 (かな) 寺本 陽春

- 読売俊英賞 (漢字)
- 伊藤 新川
 - 後藤 春洋
 - 酒井 青桐
 - 平野 公鶴
 - 松澤 昂永
 - 安藤 佳舟
 - 中田 雅美
 - 本田 煌雲
 - 鎌倉 雅代

- 読売奨励賞 (漢字)
- 桜井 柳絮
 - 高木 溪川
 - 林 華泉
 - 原 霞扇
 - 河村 典子
 - 高根 桂祥
 - 正田 香有
 - 水野 佑華
 - 村井 麗光
 - 渡辺悠記子

- (篆刻)
- 尾崎 涼舟
 - 窪田 蝶華
 - 五井 花径
 - 志賀 青香
 - 仲村 春水
 - 長谷川華香
 - 菱田 萬峰
 - 前田 祥園
 - 森本 夏溪
 - 安田 翠嵐
 - 石田 範子
 - 伊藤 弥生

- (調和体)
- 志賀 青香
 - 仲村 春水
 - 長谷川華香
 - 菱田 萬峰
 - 前田 祥園
 - 森本 夏溪
 - 安田 翠嵐
 - 石田 範子
 - 伊藤 弥生

- (篆刻)
- 澤 聖堂
 - 永井 友理
 - 濱條美由紀
 - 八木 敬子
 - 香月 恵里
 - 濱嶋 淳子
 - 青木 美洲
 - 青木 清波
 - 大崎 露光
 - 小笠原青華

- (漢字)
- 浅川 都鸞
 - 阿部 光泉
 - 石井 瑞鶴
 - 石川 明加
 - 石本 麗水

- (調和体)
- 牛田 美泉
 - 江崎 露舟
 - 太田 喜翠
 - 奥田 蘇水
 - 春日井静月
 - 加藤 定子
 - 加藤 碧涛

- (漢字)
- 河原崎坡青
 - 北岡 青滲
 - 木村 爽苑
 - 倉科 清怡
 - 樽林 春翠
 - 額 皐葉
 - 小林 峰玉
 - 小林 雅子
 - 近藤 諏谷

- (漢字)
- 鈴木 夏龍
 - 鈴木 美豊
 - 鈴木 晶行
 - 鈴木 英哲
 - 坪井 英哲
 - 勅使河原恵翠
 - 富田 華妍
 - 豊島 積流
 - 猶井 紅風
 - 中沢 志香

- (かな)
- 伊佐治美芳
 - 板倉 恵子
 - 伊藤 汀月
 - 上野 明美
 - 宇佐美待月
 - 梶田 女理
 - 加藤 桂子
 - 木村 立代
 - 甲谷富美子

- (調和体)
- 奥野 鶴扇
 - 木村 輝扇
 - 倉田 朝華
 - 小島 白汀
 - 小松 月泉
 - 近藤 青洮
 - 菅谷 芳泉
 - 竹浦 榮翠
 - 日比野汀華
 - 藤澤 秋嶺
 - 堀 清溪
 - 本田 吉華
 - 松崎 朱實
 - 村上 誠香
 - 山田 青舫
 - 吉村佳代子

- 読売新聞社賞 (漢字)
- 加藤 紫雲
 - 上小倉積山
 - 神保 峯子
 - 寺本 陽春

第六十五回 毎日書道展入賞者 (本会会員 関係分)



会員賞 (近代詩文書部) 川本 大幽

- 会 員 賞
- 〈近代詩文書部〉
- 野田 館字
- 川本 大幽
- 〈近代詩文書部〉
- 深津 洋子
- 浅井 明奈
- 梶田 春陽
- 高木 清雲
- 丹羽 彩霞
- 鶴飼 冠山

- 佳 作 賞
- 〈漢字部Ⅰ類〉
- 安藤 溪泉
- 永田はる恵
- 岡野 敬子
- 前田千登世
- 堀田 恵香
- 比良 公美
- 花井 清水
- 酒井 琴泉
- 大橋 幽徑
- 太田 龍峰
- 榎本 康代
- 伊佐治雪華
- 伊佐治雪華
- 中須賀幸子
- 片桐千賀子
- 梅村 游藍
- 林 翠園
- 鈴木 香葉
- 伊藤 柳翠
- 安藤 美泉
- 〈漢字部Ⅱ類〉
- 野口 志園
- 中井 港星
- 中村 香葉
- 浅野 千香
- 小宇佐久美
- 佐藤 晨麗
- 角谷 弘子
- 棚橋 一葉
- 野村 華春
- 堀井 恭子
- 山田 流芳
- 〈かな部Ⅱ類〉
- 大辻 秋恵
- 加藤 浩子
- 飯田 翠園
- 井上 香苑
- 大橋 卯京
- 岡島 房玉
- 川村 春霞
- 小島 廣子
- 坂本 美薔
- 東海林路子
- 立花 雨翠
- 谷利 紫鳳
- 枋久保律子
- 平野 智山

- 秀 作 賞
- 〈漢字部Ⅰ類〉
- 永野 泉美
- 鈴木 容華
- 木村 青燕
- 田中 華城
- 中井 港星
- 舟戸佐輝子
- 松下 聖心
- 松田 清美
- 村上 薫仍
- 山田 鶴玲
- 朝倉 桃香
- 泉 好子
- 小島 初美
- 藤井 子葉
- 〈漢字部Ⅱ類〉
- 野口 志園
- 中井 港星
- 中村 香葉
- 浅野 千香
- 小宇佐久美
- 佐藤 晨麗
- 角谷 弘子
- 棚橋 一葉
- 野村 華春
- 堀井 恭子
- 山田 流芳
- 長谷川 結
- 塚原 清雪
- 中村紗代子
- 〈かな部Ⅱ類〉
- 大辻 秋恵
- 加藤 浩子
- 飯田 翠園
- 井上 香苑
- 大橋 卯京
- 岡島 房玉
- 川村 春霞
- 小島 廣子
- 坂本 美薔
- 東海林路子
- 立花 雨翠
- 谷利 紫鳳
- 枋久保律子
- 平野 智山
- 〈大字書部〉
- 朝倉 桃香
- 泉 好子
- 小島 初美
- 藤井 子葉

U23奨励賞

- 〈漢字部Ⅱ類〉
- 長谷川 結
- 塚原 清雪
- 中村紗代子

社中展・個展のご案内

○第十九回 大知会系 興文会書展

代表 伊藤昌石

会期 十一月六日(水)〜十日(日)

会場 電気文化会館五階「東西ギャラリー」

本会会員による書展のご案内を会報及びHPにてさせていただきます。

会報には案内原稿を、HPには展覧会案内用ハガキを本部迄お送り下さい。

次号(一月号)は二月中旬から翌年五月中旬までの展覧会を掲載する予定です。

編集部

会員交流 ボウリング大会

日時 12月8日(日) 15:00

懇談会 競技終了後

会場 星ヶ丘ボウル

会員外の方も参加出来ますので、ご友人等おさそい合わせください。多数のご参加をお待ちしております。(厚生部)

会費 3,000円 ※競技費、懇談会費用を含む

申込〆切日 11月16日(土)

「2013年 チャリティー愛の募金」について

拝啓 時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

平素は、本会の福祉事業に対しまして、ご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本会では、毎年、年末に「しあわせ薄い人々に愛の手を」をスローガンとして「チャリティー愛の募金」を行っております。

今年は特に猛暑日がつづき、異常気象による各地での集中豪雨の水害、そして未曾有の東日本大震災から2年半以上経過した今も、現地では疲弊を余儀なくされている方々もたくさんおられます。

つきましては、本会役員の先生方並びに会員の皆様には広く献金をお願いし、中日新聞社会事業団をはじめ各所への寄託をして参りたいと思います。何卒主旨ご理解の上、下記の

通りご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この募金の締め切りを、平成25年12月2日(月)といたします。送付してあります振込用紙にてお願いいたします。

尚、献金の経過並びにご芳名は1月発行の中日会報でご報告をさせていただきます。

敬 具

理事長 鬼頭 翔雲

渉外宣伝部長 岡野 楠亭

ご献金にお願いの基準

副会長、常任顧問、理事、監事、顧問	10,000円
参与、評議員	3,000円
正会員	1,000円

支部だより (上半期)

一宮支部

●二〇一三 一宮総合美術展

会 期 六月六日(木)～九日(日)
 会 場 一宮スポーツ文化センター
 出品者 四十三名
 主 催 一宮市教育委員会
 一宮市芸術文化協会

一宮市芸術文化協会に所属する書道・日本画・洋画・彫刻立体・デザイン・工芸・写真の、各団体から推薦された作家による総合美術展です。

一宮支部から四十三名、総勢百四十八名による大展覧会で、多くの方々に楽しくご観覧いただきました。

書部門の代表理事を務める当支部からは、出品だけではなく、陳列・会場当番等の協力も行いました。



一宮総合美術展

●第二十回選抜作品展

会 期 七月十三日(土)～十四日(日)
 会 場 一宮スポーツ文化センター
 出品者 百八名

おりものの感謝祭一宮七夕まつりに協賛し、一宮書道連盟主催の学生展の併催展で、支部として後援を行いました。

この「選抜作品展」は、支部役員を中心に、学生展参加指導者も出品し「読めて、楽しくユニークな小作品展」を目指しています。指導者と生徒の作が一堂に展示されるため、師の作品にも接することができ、参観者も多く、盛況裡に終了しました。



選抜作品展

半田支部

●第四十九回学童書道展

会 期 八月十日(土)～十一日(日)
 会 場 半田市福祉文化会館
 出品数 二、五三八点



学童書道展

支部役員と出品指導者による厳正審査により賞を決定。毎年、参加者が減少していくなかで、本年は担当者の頑張りにより若干の増員となった。

会期中はたくさんのお親子さんたちが来場をされ、子供たちの作品を一生懸命さがし見つけると、みんなで写真を撮っていた。その様子を見てみると頑張りという気持ちになる。来年は五十回展。

●寿色紙贈呈

会 期 八月二十三日(金)
 枚 数 七一〇枚
 寄贈先 半田市・東浦町・阿久比市
 武豊町・美浜町・南知多町

●第四十七回支部展

会 期 八月三十一日(土)
 ～九月一日(日)
 会 場 半田市福祉文化会館

出品数 一四〇点

今年も本部より鬼頭翔雲理事長はじめ松永・関根・伊藤副理事長の玉作をいただいた。また中国徐州からの友好出品六点を加えて盛会裡に終了した。

会員の作品も多彩なジャンルにわたり見応えのある作品展になった。



支 部 展

西三河支部

●支部研究会

日時 三月三十一日(日)
会場 安城文化センター
参加者 一六五名

中日書道展出品者を対象に支部研究会を開催いたしました。

本年度当番審査員一科、二科、特別選考の各審査委員の先生方により、作品をみていただき熱心にご指導いただきました。参加者の皆さんは、再度書き込むエネルギーをいただき有意義の研究会でした。



支部研究会



●第四十六回支部学生書道展

会期 七月五日(金)～七日(日)
会場 岡崎市美術館

今年度のテーマは「交通安全」で各市の交通安全協会からも賞状をいただき、幼年から高校生まで多くの作品が出ました。厳しい審査の結果、県知事賞はじめ、多くの優秀作品が展示されました。搬入受付作業↓審査↓台紙貼付け↓陳列↓賞状・賞品発送と、二ヶ月にわたる作業が事務局員総力で沢山の入場者があり大盛況で終えることが出来ました。今後とも将来の書家の増加に貢献できるよう頑張っています。



展示会場



審査



僕の作品あった！

東三河支部

●東三河支部展

会期 七月十六日(火)～二十一日(日)
会場 豊橋市美術館第三展示室
出品数 一三二点

今年度は会館の都合で第三展示室のみの展示となり二段掛けの作品もでてしまいましたが、本部から鬼頭翔雲理事長、松永清石副理事長、関根玉振副理事長、伊藤昌石副理事長の玉作を賛助出品していただき、会場に花を添えていただきました。

多くのお客様にご来場いただき、温かいご指導や励ましをいただき、盛会のうち最終日を迎えることができました。



展覧会

●講演会

日時 七月二十一日(日) 午後三時半
会場 ウェステージ豊橋二階

講師 愛知大学学長 佐藤元彦先生
演題 「いまの若者は『内向き』か」

講師の佐藤先生は青森県弘前市のご出身。慶應義塾大学、広島大学大学院を経て愛知大学経済学部に着任され、二〇〇八年から学長を務められています。専門は国際開発論で様々な会議に参加され活躍されています。

本講演は、現在海外に目を向ける若者が減少していること、その背景には「言葉の壁」「経済的困難」「就職活動への影響」等があること、若者は決して「内向き」では

なく機会を与えることでグローバル人材に育つ可能性があること、そのために大学教育が取り組まなくてはならないこと等、愛知大学の具体的な取り組みをまじえてお話ししていただきました。書道とは離れた世界の内容でしたが、次の世代を担う若者の現状や現在大学教育が抱えている問題に目を向けることができました。

●会員集会

日時 七月二十一日(日) 午後五時半
会場 ウェステージ豊橋五階

参加者 八十二名
本部から鬼頭翔雲理事長、伊藤昌石副理事長のご臨席を賜り、平成二十五年度東三河支部会員集会在盛大に開催されました。鬼頭理事長からは、開会のご祝辞とともに東三河支部展のご感想やご助言、温かい励ましのお言葉をいただきました。

引き続き議事に入り、平成二十四年度事業報告並びに二十五年度事業計画、平成二十四年度収支決算報告及び二十五年度収支予算案について報告がありました。続いて第六十三回中日書道展入賞者が紹介され、会員一同盛大な拍手で入賞を讃え合いました。

その後、伊藤副理事長による乾杯の御発声で懇談会が始まり、盛大で和やかな会員集会になりました。



講演会

濃飛支部

●第二十八回濃飛支部展

会 期 七月二十六日～二十八日
会 場 中津川市にぎわいプラザ五階
出品数 五十点

(賛助四点、会員四十一人、会員外五)

入場者 三百名余
遠く県外からの入場者もあり、これを機に会員が増える事を願います。



支 部 展

●濃飛支部集会

日 時 七月二十八日(日)

会 場 中津川市にぎわいプラザ集会室
はじめに濃飛支部設立に御尽力くださったりと支えて戴きました故永治秋聲先生の黙祷を行いました。

来賓に松永清石副理事長、横井宏軒企画兼IT部長をお迎えし、松永氏から祝辞を戴きました。

二十四年度事業報告、二十四年度収支決算報告がなされ、全員で了承されました。次に二十五年度事業計画、二十五年



支 部 集 会

度収支予算について提案があり、全員一致で可決されました。今年度は役員改選もあり、了承されました。その他質疑応答があり、閉会となりました。

●講演会 同日同会場

講 師 松永清石先生

「郷土の先賢に学ぶ」

今の竹鼻町の永田佐吉さんの話をされました。佐吉さんは仏佐吉と呼ばれ我が故郷の地域のために尽力されたそうで、当時の修身の教科書にも載った方の様です。大きな『佛佐吉双六』を配って戴きました。次に海津郡でお生まれになった吉田桂秋先生のお話をされました。桂秋先生から学ばれた事、桂秋先生の書風、古典的な味わいを生かしながら文字性を常に尊重された作品を何点か紹介していただきました。

●交流会 同日

会 場 中津川市「勝宗」

故永治秋聲氏に功労者表彰、感謝状が贈られ、永治氏のお好きだった中津川子ども太鼓の力強い演奏、斉藤千秋氏の詩舞が交流会を一段と盛り上げて下さいました。おいしい料理を戴きながら来賓の先生方をはじめ参加された皆様方との楽しい語らいが出来ました。来賓の先生方、会員の皆様、本当に御苦勞様でした。そしてありがとうございます。



交 流 会



北勢支部

●支部展

日 時 七月二十六日(金)～二十八日(日)
場 所 四日市市文化会館・第一展示室
出品数 八十五点

本年は展示室を変更して開催しました。

本部からは鬼頭翔雲理事長、松永清石、関根玉振、伊藤昌石副理事長の特別出品を頂き、広くなった会場を引き締めていただきました。

また本年度は初めて会員外の出品を可としました。点数は十点とわずかでしたが、今後の展覧会の公開、拡充の足がかりとなればと思っております。

出品作品は多様で、来場された方は書の親しみやすさを感じ取って頂けたものと思っております。



支 部 展

●支部集会・講演会

日 時 七月二十八日(日)
場 所 四日市市文化会館・第三ホール
参加者 八十一名

(支部集会)

本部より青木清濤総務部長、川崎尚麗第二経理部長をお迎えし、また、太田借風名誉顧問の参加もいただき、平成二十四年度事業報告、会計報告、二十五年度事業計画、予算が報告されました。

(講演会)

集会後、同会場において、京都教育大学名誉教授・杉村邦彦先生による講演会を開催しました。演題は「王羲之への道程」。

書人研究の方法としては

①著作、伝記

資料を深く読み解く、②書作品を網羅的に収集する、③言葉(資料)と形象(作品)を相互検証する。と前置きされ、書聖・王羲之の人間像、作品について豊富な研究経験と、多くの資料を示され説明されました。また具体的に王羲之の文字の特徴を面白く分析して頂きました。最後に、大正蘭亭会百年に因む記念関連事業、資料の映像上映もあり、熱弁により時間のたつのが惜しまれる講演となりました。

●懇談会

講演会の後、会場をプラトンホテルに移して本部の先生方、講師の先生を囲んで十四名で懇談会が行われました。余興でジャンケンゲームもあり、和やかな雰囲気の中またたく間に時間が過ぎました。会員相互の親睦も図ることが出来、有意義な時間を持つたと思います。



講 演 会

岐阜支部

●岐阜支部集会

日時 五月二十六日(日)
会場 岐阜会館
出席者 七十五名
本部より、関根玉振、松永清石副理事長、横井宏軒企画部兼IT部長のご臨席を頂き、平成二十五年度岐阜支部集會を開催しました。

平成二十四年度事業報告、並びに二十五年度事業計画、平成二十四年度収支決算報告及び、二十五年度収支予算案について審議され滞りなく承認されました。
役員改選では、支部長代行であった林玲玉氏が改めて、次期支部長として選出されました。



支部集會

●講演会 交流会

参加者 九十五名
演題 「本願寺本三十六人家集の世界」
講師 徳川美術館副館長 四辻秀紀氏
徳川美術館は、昭和十年に開館、日本では四番目に古い私立美術館であり、現在その美術館の副館長である四辻秀紀先



講師 四辻秀紀氏

生より、ご講演を賜りました。スライドにより「本願寺本三十六人家集の由来、特徴、又、かなの歴史、書の流れ」等々贅を尽くした王侯貴族の感性豊かなその文化は、日本人の美意識の原点であり、画像に投影されたその一枚一枚の美しさに魅了させられた有意義な講演会でした。続いて和やかな交流会に移りました。



●支部会員展「岐阜支部撰抜展」

会期 九月十三日(金)～十五日(日)
会場 シネックスホール
参加者 九十名(二科審以上)
今年度は、例年の展示会場が都合悪く、少し狭い会場のため、半折りの形式にして二科審以上の参加「支部撰抜展」としました。

本部より、鬼頭翔雲理事長、松永清石、関根玉振、伊藤昌石副理事長の玉作を贊助出品して戴き会場に花を添えて戴きました。お陰で小作品でしたものが、すっきりと趣きのある支部展を終えることが出来ました。



岐阜支部撰抜展

中南勢支部

●中南勢支部研修旅行

期日 十月六日
今回は実習を中心に計画をしました。予報とは裏腹に快晴のバス旅行、四十八名の参加でした。十八号台風の爪痕の残った信楽、たぬき村での絵付け。ある者は風景を、またある者は具象、静物、また、あらかじめ準備していた漢詩や少字数の篆書や俳句など。およそ一時間の充実したひと時の後、昼食後はしばらく陶器を漁った。



信楽陶苑たぬき村にて

もう一つは、近江八幡、保存市街の散策。近江商人の文化と伝統を誇り高く守り、また新しい発想をここかしこに試す冒険は、どこか、書の学びに通じ興味深い。日牟禮八幡宮はその中心にあり、鬱蒼と茂る森木立の奥に、開放的な社殿が印象的だ。小道を挟んで営む老舗の和菓子屋には、各地からの観光客が引きも切らない。参加者はこの一日を胸の奥深くたたみ込んだ。

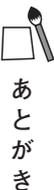
計報

心より哀悼の意を表しご報告申し上げます。(厚生部)

○7月12日 ○8月26日
正会員 顧問
宮田千代子氏 飯田樓山氏
82才 88才

○8月18日 ○8月31日
評議員 正会員
西郷雪枝氏 戸田一男氏
64才 89才

○8月23日 ○9月11日
評議員 評議員
神谷松扇氏 磯谷凄聴氏
ご尊父 ご尊父
玉二様 聴松様
82才



あとがき

・会報一七〇号をお届けいたします。
・本号は本年度後期の行事、事業案内が多く記載されています。是非ご通読の上、ご協力、ご参加ください。(編集部)

ホームページアドレス http://www.cn-sho.or.jp
メールアドレス info@cn-sho.or.jp